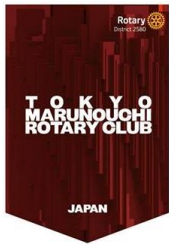


東京丸の内ロータリークラブ

2021年11月24日 第88回 議事録



T O K Y O
MARUNOUCHI
ROTARY CLUB



Now...let's act!
「さあ、行動しよう！」

2021-22 年度 クラブ会長
Club President
古山真紀子 Koyama Makiko

“SERVE TO CHANGE LIVES”

2021-22 国際ロータリー会長
ジェカール・メータ
2021-22 RI 第 2580 地区ガバナー
若林 英博



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

【式次第】12:00～13:00

1. 司会進行 藪口 真太郎 会員
2. 開会点鐘 古山 真紀子 会長
3. ロータリーソング 「手に手つないで」
4. ゲスト・ビジター紹介 吉田 秀樹 会員
清水 ミシェル 様、逸見 圭朗 様
5. ニコニコ報告 尾崎 由比子 会員
6. 会長挨拶 古山 真紀子 会長

・先日ショコラボさんに伺った際、伊藤会長の会社創立に対する情熱にふれ、予想外の感銘を受けた。今日皆さんも同じ想いに触れることができると思う。伊藤様よりしくお願いします。

・清水さん、逸見さんよくいらっしゃいました。何か分からないことがあれば何でも聞いてください。

・今年度の若林ガバナーはポリオ撲滅に熱心で、従来はポリオ対策として年会費から皆様一人当たり 30 \$ を払っていたが、今年はプラス 50 \$ とし、80 \$ の寄付を募っている。できるだけポリオ撲滅の取り組みへ丸の内 RC として関与するという趣旨により、後期の会費徴収時に、3 月の地区大会の参加費 9,000 円とポリオの加算金 50 \$ を上乗せして請求する形を取りたい。任意のためご意見がある方は個別にご連絡を下さい。

7. 米山奨学金授与 光行 順子 会員

米山奨学生 張さんのコメント

・皆様お久しぶりです。先月は論文の作成にとっても忙しくしていた。現在は第一段階がようやく完成したところ。先週の木曜日に米山奨学生の三者懇談会があり、とても緊張した。今週の土曜日には荒川の水辺の美化活動に参加する。楽しみにしている。

8. 初めてのメイクアップ 高橋 由珠 会員

・ロータリークラブの会員になって初めて、他のクラブを訪れてきた。訪問先はお茶の水ロータリークラブで丸の内 RC の親クラブということで期待して行ってきた。

・会場は東京ドームホテルの 42 階で、当日はお天気が良く見晴らしも良く、人数も 40 人弱という丸の内の 4 倍ほどの規模。

・丸の内 RC は女性が多いが、お茶の水 RC は女性会員が一人だけの為、雰囲気は違っていた。年配の落ち着いた方が多く、非常に良い刺激を受けた。

・人数がいることで非常に活気があり、丸の内も会員数を増やしていきたいと感じた。

・当日の卓話者が古山会長で通訳の仕事に関しての卓話を伺った。いつもの例会では聞くことが出来ないお話で、非常に良い機会だったと思う。

・これをきっかけに他クラブに参加できる機会を通じて、学ぶことができればと思っている。

9. 幹事報告 鷺澤 充代 幹事

- ・献血のお知らせ 新宿駅南口 11月28日(日)
- ・荒川水辺の美化活動のお知らせ 11月27日(土)
- ・男性用古着の支援 今月末に事務局より送付予定

10. 卓話

一般社団法人 AOH 代表理事
株式会社 ショコラボ

【ショコラ房】

代表取締役

伊藤 紀幸 様

「障がい者と働く喜び&学び」

・こんにちは。今日僕が喋りたいことを先にお話させていたただく。障害者の働く場がいかにないか、彼らの賃金が耳を疑うほど安いことを、皆さんにお知らせしたい。

・今から 20 年前、当時アナリストだった頃、授かった我が子の将来を憂い、脱サラをし、10 年前にショコラボを立ち上げた。

・私もかつて横浜みなとみらいの RC に在籍しており、「手
に手をつないで」を懐かしい思いで聞かせてもらった。

・ショコラボを立ち上げ 10 年間、精一杯頑張ってきた。そ
の中で、障害者と共に働くことを通じて、当時は想像して
いなかった経営者としての学びがあった。

・5.6 パーセント、この数字は我が国の障害者が労働基準
法のもとに働いている割合。残りの 95%弱は最低賃金法
が適用されない労働条件の下で働いている。福祉事業所
で働いている人・引きこもり等で自宅にて過ごす人は 5 割
近くいる。

・福祉事業所の平均工賃は平成元年に時給 214 円。高校
生の時給でも彼らの 5 時間分に当たる。月給 16,000 円。
20 年前の全国平均の月給額は 10,000 円と非常に低い。

・三井信託銀行時代、30 歳の時に息子は生まれた。1,500
グラムで保育器に 3 ヶ月入っていた。医師によると、医学
的に症例が少なく世界でも 100 例程度のレアケース、余
命もわからないという。なぜ我が家にこのようなことが起き
るのか・・・と三日三晩悩み問い続けた。

4 日目に、「息子にとってもたった一度の人生、楽しい人
生にしよう」と思い立ち、「ともに前向きに生きよう・・・」と妻に
告げた。

しかし実際にはそれから 5 年の間、障害を持つ子供が生
まれたことは誰にも言わなかった。年老いた両親にも伝え
なかった。心配を掛けたくなかったから。

・3 歳になった時、私に語りかけている息子の言葉が一
言もわからなかった。発語が悪かった為だが、日々生活を共
にしている妻は、全てを聞き取っていた。

1歳 8 ヶ月で初めて立ち上がる等、明らかに成長の速度
が一般の子供と違う息子だった。
当時、公園デビューをして何歳と聞かれた時、実年齢を伝
えることができない。「早く生まれたから・・・」と言い訳をする
事実疑問と嫌悪感を持った。

・脳が活性化する為には、保育園は、さらに小学校は普通
学級に入れるほうがいいのか、養護学校に入れた方がいい
か・・・等、自分なりに常に子供の事を考えていた。

しかし、妻に言われた言葉は、「私たちが死んだ時、その
先のことを悩んでいる」。

その時、まだ子供は僅か 3~4 歳、15 年先迄を見ていた
自分に対し、子供の生涯を見据えていた妻、そのギャップ
を改めて知った。

・翌日転勤を希望しない旨、会社の上長に伝えた。転勤不
可⇒出世できない・・・こんな思いを持つ自分がいた。しかし
その半年後、本店の融資マンとしてのデビューが決まっ
た。個人的事情を知った上での会社の配慮に対し、本当
に嬉しかった。

・会社からの期待に応えたい思いもあり、より仕事に邁進し
ていった。

一方、家庭においては、子供と全く接点のない生活になっ
てしまっていた。今、父親として息子に何ができるのか・・・
苦悩の末、家族との時間を確保するために、花形部門から
の退職の道を選んだ。

・35 歳の時、(株)日本格付研究所に採用。時間的に規則正
しい生活が送れるようになり、家族と夕食を取れる等、精神
的には充実していた。

・2001 年幸運にも横浜の国立養護学校に息子が入学す
る。生徒 6~7 人に対し教師 3 人がつく。学校に通う 12 年
間で、息子にとって良い将来が示されるのでは・・・という大
きな期待が生まれた。

・自宅を転居し、明るい希望を持って入学したが、最初の
父親参観日に、「高校を卒業しても就職はできない、でき
たとしても工賃:月給は 3,000 円」と当時の障害者の就労
実態を伝えられた。

仕事の内容は拾ってきた缶を足で踏みつけるというもの。

・当時自分は深夜残業 1 時間で 3,000 円得ることができ
た。このギャップに障害者雇用の現状を突き付けられた思
いだった。

・その後、外資系格付け会社ムーディーズ・ジャパンに転
職。当時は長銀・日債銀の経営破綻などが生じ、世間一
般の景況感は厳しかったが、外資系ということもあり、恵ま
れた職場環境と好待遇を受けていた。当時夜間に帰宅す
る際に使用したタクシー代が月 36 万円ほどと、障害者雇
用の実態との格差をますます目の当たりにしていく。

・日経新聞の連載「私の履歴書」にヤマト運輸(株)が潰れそ
うになった際の V 字回復の立役者である小倉昌男 会長
の記事が掲載された。

・小倉氏は銀座と赤坂にカフェを開設。経営者としての手
腕を発揮し、障害者の従業員に月々 10 万円を渡すことが
出来る企業を目指していた。国の障害者に対する補償 6
万円と合わせ 16 万円を得られれば、グループホームに入
り、1 人で自立して暮らせることが保証される最低の金額
であった。

・敬虔なクリスチャンであった彼は、ヤマト福祉財団理事長
として「障害者のために役立ててほしい」という意思によ
り、財団に財産の全てをドネーションしている。

・小倉氏の生き方に感動した。何て素晴らしい生き方だろ
う・・・と。障害者の親である自身を見つめなおし、「障害者
のための会社を作りたい」という脱サラ意識が強くなった。
「経済的に自分の家を守れ」と周囲からは言われたが、半
年間悩んだ末に、後悔をしたくない気持ちから脱サラを妻
に相談した。そんな自分を後押ししてくれた経緯があっ
た。

・何のために自分が生きているのか？誰のために何をした
いのか？場所と仕組み、組織を作り障害者に工賃を支払
い続けられる(サステナビリティ・ゴーイングコンサーンが
可能な)会社を作ることを考え続けた。規模は問わない自
分と関わった身の回りの人たちが、そこで普遍的に働き続
けることが出来れば・・・と思っている。

・儲かる職種は粉商売と化粧品、当時の格付けの知識か
ら分析はできていたが、試行錯誤の後、最終的に自分の
好きなことをやると決意を固めた。

・自分が歩んできた第3次産業は、維持管理費(設備・人件費)が掛かり、創業の主目的たる障害者に回るお金が少なくなる。先輩から自分なら第2次産業に取り組むとの意見を受け、「自分の好きなことをやる」の想いに基づきチョコレート製造業につながった。

・「第9回日本でいちばん大切にしたい会社」の実行委員会特別賞に選出された。
今年2021年10月31日には日経電子版には「幸せのスイーツ」という特集記事も乗せられている。

・美味しいチョコレート専門店として掲載してもらっていることに大きな意味がある。「美味しいチョコレート」という実績があって、その後にストーリーに共感してもらわなければならない。お涙頂戴だけでは企業は続かない。お陰様で、今では高島屋、横浜ランドマーク、紀伊國屋上野店等、多くの販売店を設置することが出来た。

・障害者と働いて学んだ点は、「決意すること、他責ではなく自責、コーチング」。
働く人が間違わないように、仕組みを作ることが我々サポート役、スタッフの仕事。失敗した結果を非難しても何も変わらない。

彼らに気づいてもらう、心で感じてもらう、そのような指導が必要。

相互承認、素敵な行動を取った人に対し、その月でありがとうたくさん集めた人を表彰する。

DiSK理論(ディスク)。支援員の方の心が折れてしまうことがない様、分類別行動分析によってアプローチ方法・対応の仕方を検討し、組織で守る仕組みを取り入れている。

・まだまだ道半ば、七転八倒ですが、振り返ると自分の人生は息子のおかげで広がった。楽しい人生を過ごせている。
これからもショコラボのチョコレートを是非よろしくお願ひします。

11. 今後の予定 古山 真紀子 会長

伊藤会長ありがとうございました。もっと聞きたいと皆様思っていると思います。私の感じた感動を皆様も受けたのではないかと思う。
今後は、消費者として支えさせていただければと思っている。

12月1日 第89回例会	年次総会 22-23年度役員承認 21-22年度上半期会計報告 等
12月15日 第90回例会	夜例会 18:30開場 19:00~21:00開催 卓話:看護師(フリーランス) 中條 ゆり 様

12. 閉会点鐘 古山 真紀子 会長

13. 写真撮影

創立日: 2017年7月24日
認証日: 2018年2月26日
認証式: 2018年5月28日
事務局: 東京千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル1F
TEL: +81 3-5533-8846
E-mail: marunouchi-rc@outlook.jp(事務局: 桑原奈知子)
URL: <https://www.tokyomarunouchi-rc.com/>

例会日: 第1・第3水曜日
12時00分 - 13時00分
例会場: 東京千代田区丸の内2-1-1 明治生命館B1F
センチュリーコート丸の内
(covid-19の期間中はオンライン例会の可能性あり)
会長: 古山真紀子 幹事: 鷺澤充代